

10 しかし、【主】はまことの神、生ける神、とこしえの王。その御怒りに地は震え、その憤りに国々は耐えられない。

11 「あなたがたは、彼らにこう言え。『天と地を造らなかった神々は、地からも、この天の下からも滅びる』と。」

12 主は、御力をもって地を造り、知恵をもって世界を堅く据え、英知をもって天を張られた。

13 主の御声に、天では水のざわめきが起る。主は地の果てから雲を上らせ、雨のために稲妻を造り、ご自分の倉から風を出される。

14 すべての人間は愚かで無知だ。すべての金細工人は、偶像のために恥を見る。その鑄た像は偽りで、その中には息がない。

15 それは空しいもの、物笑いの種だ。刑罰の時に、それらは滅びる。

16 ヤコブの受ける分はこのようなものではない。主は万物を造る方。イスラエルは主のゆずりの民。その御名は万軍の【主】である。

【 ローマ人への手紙 】

9 : 33 「見よ、わたしはシオンに、つまずきの石、妨げの岩を置く。この方に信頼する者は失望させられることがない」

10 : 11 聖書はこう言っています。「この方に信頼する者は、だれも失望させられることがありません。」

* 特に断りがない限り、新改訳2017より使用



希望の光バプテスト教会

2020年 8月 31日 (日)

礼拝メッセージノート

「 真の神と偶像 」

| エレミヤ書講解-25 | エレミヤ書10:1-16 | 他 | 小野寺 望 牧師

【 エレミヤ書 10章 】

- 1 イスラエルの家よ、【主】があなたがたに語られたことばを聞け。
- 2 「【主】はこう言われる。諸国の道を見習うな。天のしるしにうろたえるな。諸国がそれらにうろたえても。
- 3 国々の民の慣わしは空しいからだ。それは、林から切り出された木、木工が、なたで作った物にすぎない。
- 4 それは銀と金で飾られ、釘や槌で、ぐらつかないよう打ち付けられる。
- 5 それは、きゅうり畑のかかしのようで、ものも言えず、歩けないので、運んでやらなければならない。そんなものを恐れるな。害になることも益になることもないからだ。」
- 6 【主】よ、あなたに並ぶものはありません。あなたは大いなる方。あなたの御名は、力ある大いなるものです。
- 7 国々の王である方、あなたを恐れない者がいるでしょうか。そのことは、あなたにとっては当然のことです。まことに、国々のすべての知恵ある者の中にも、そのすべての王国の中にも、あなたに並ぶものはありません。
- 8 彼らはみな間抜けであり、愚かなことをする。空しい神々の訓戒——それは木にすぎない。
- 9 銀箔はタルシシュから、金はウファズから運ばれる。これは木工と金細工人の手のわざ。これらの衣は青色と紫色、すべて名匠の作。

(4ページへ続く)

◆ はじめに

| 宗教（神）は人間による創作か

1. 無神論的発想

- ①それ自体が証明しようがない。
- ②言っている本人も、神の啓示からしっかりとした論証がされていない。

2. 聖書的には

- ①霊の目に覆いがかかった状態（霊的盲目状態）
- ②真の神以外の偶像礼拝や占い、迷信に関しては的を得ている。

◆ メッセージのアウトライン紹介とゴール

| 神は永遠であり天地の創造主である。

* このメッセージは、神・キリストの確かさについて学ぶものである。

=====

I 異邦人の道に従うな（1～2節）

1. 聖句の考察

- (1) 聖句の比較・・・イザヤ書にも類似の聖句がある。引用かどうかは不明。
イザ40：18～20、41：7、44：9～20、46：5～7
- (2) 11節はアラム語で記される。70人訳では6～8節と10節が省略される。
- (3) 文章の流れが滑らかでない箇所もあるが、少なくともエレミヤがカナン
の偶像礼拝を目撃していたことは間違いない。

2. 偶像と占い

- (1) バビロニア帝国では、天に現れる現象（日食、月食、星の動きなど）から
吉凶を占い、不吉な動きを恐れた。
- (2) 天文学などの学問と、占いや偶像礼拝の境があいまいだった。
* 例：キリスト降誕の一年後にベツレヘムに訪れた東方の博士たち
- (3) ヨシヤ王の宗教改革では、これらの習慣が取り払われた（2列23：5-11）
* 今日の星占いを含め、あらゆる占いから距離を置くべきである。

II 偶像礼拝の愚かさ（3～）

1. 偶像と真の神について：4回の対比

- (1) 3～7節（3節の直訳「むなしい者たち（偶像）の教えは木そのもの」）
a 3～5節が偶像について b 6～7節が真の神について
- ①偶像は木工が木から削って、銀や金で飾ったもの。
- ②きゅうり畑のかかしのように、もの言えず、動けない存在。
- ③つまりその異教の教えは、基となる偶像と同様に全く価値がない。
- ④真の神の御名は、力ある大いなるもの。力や知恵において、比類なきお方。

(2) 8～10節

a 8～9節が偶像について b 10節が真の神について

- ①偶像は外国から輸入した金銀を木の像にかぶせたもの。どんなに巧みに造られていても、所詮は命のないもの。
* 「タルシシュ」は古代世界の西の果て（スペイン・タルテスス）。
銀や鉄、鉛の産地（エゼ27：12）。
* 「ウファズ」は特定できない。精錬された金？（1列10：18参照）
- ②真の神は、「真の神」「生きる神」「とこしえの王」である。
どのような権力者であっても、このお方の前に敵う者はない。

(3) 11～13節

a 11節は偶像について b 12～13節が真の神について

- ①偶像は人の手の作品であり、やがて天の下から滅びる運命にある。
* 11節はアラム語で、恐らく汎神論に対する当時の格言か？
- ②真の神は天地を創造されたお方。今も雨を降らせ、私たちの生活を守る。

(4) 14～16節

a 14～15節が偶像について b 16節が真の神について

- ①偶像は息の無い偽りの神であり、それを造る者も、それに信頼する者も、
ともに恥を見るようになる。
- ②それに対して、真の神「万物を造るお方」「万軍の主」である。
* 16節「ヤコブの分け前」（NEBでは「ヤコブの創造者」）は主ご自身。
神はイスラエルの父であり、契約は有効である。エレ3：3-5など
* アブラハム契約という歴史哲学は、変わることなく有効である。
* 12～16節のくだりは、51：15～19で繰り返される。――

◆ まとめ：神は永遠であり、天地の創造主である。

1. 神の存在証明を考える。

存在論的証明、宇宙論的証明、目的論的証明、人間論的証明
* 創造者はその者以上の存在を造ることができない。

2. 占いや偶像との付き合い方：占いは誤った力に依り頼んで未来をのぞき見し、
変えようとする行為である。また、悪霊との交流の門戸を開く行為である。
そして真の神が嫌っておられる行為である。

3. 三位一体の神の二位格、御子キリストは永遠なるお方であり、消滅することがない。
信頼する者が失望させられることは決してない。（ロマ9：33、10：11など）